

---

# 6年間変わらない恋

水野 音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

6年間変わらない恋

### 【Nコード】

N4590C

### 【作者名】

水野 音

### 【あらすじ】

なんで勇気がでないんだろう。こんなに近いのに。近すぎて伝えられない。忘れようと思ってても忘れられない。6年間、ずっと変わらなかった私の好きな人。

私は、高校2年生。ごく普通の高校に通うごく普通の女子高生。

その日は日直だったから教室で日誌を書いていた。

プリントも持っていていかなきゃいけないし予定も明日のに変えなくちゃ。

そう思っていると1人の男子が教室に入ってきた。間宮大地だ。

大「1人じゃ大変だろ？手伝うよ」

私「ありがとう。でもなんで？皆と遊んでたんじゃないの？」

大「そうだったんだけど、今日一緒に日直してる奴、休んでんじゃん」

私「で、来てくれたんだ。結構良いところあるじゃん」

大「まーねー。俺、優しいから」

私「何言ってるの。じゃあプリントお願い」

大「おっけー」

大地は私の親友。女友達よりも仲が良いかもしれぬ。

正義感が妙に強くて困ってる人をほっとけない。

私はそんな大地が好きだった。

大地のことが好きだって気づいたのは中1の最初の授業がきっかけだった。

私と大地が親友になったのもその日からだった。

授業が始まって、新任の先生が自己紹介していると

まだ小学生気分の抜けない男子が、騒ぎ始めた。

もう、先生が困ってるじゃん。

そう思っていると1人の男子が立ち上がった。

「も・お前ら！先生困ってんじゃない。もう中学生なんだからしつかりやろうよ」

その男の子は、ごく普通の子だけどものごとキツパリ言えてクラスのリーダー的存在だった。

前からすごいとは思ってたけどここまで勇気があるとは。

クラスの皆、言う事聞いちゃったし……。なんか、カッコいい……。

その日からかな。私はその人をどんどん意識するようになった。

好きなのは、分からない。気になっていたのは事実。

これが、好きだって事に気づいたのは、ある日の放課後の事だった。いつもの様に恋バナをしていると

友達の1人がこんなコトを言ってきた。

「さっきから、間宮の話ばかりしてるけど好きなの？」

自分が気づかないうちにその子の事ばかり話していた。

いつも目がその子を追ってた。話すたびにテンションが上がって。笑顔を見る度に嬉しくなって。ドキドキして……。

そうか。これが恋なんだ。

好きって分かったとたん、その人ともっと仲良くなりたと思った。体が勝手に動いた。自分でも分からないうちに話しかけていた。

私「間宮君、勇気あるじゃん。友達になろうよ」

大「……………」

私「あ……ごめん。口が勝手に」

大「……プツ。あはははは」

私「え？」

大「あ、いや。面白い奴もいるもんだなーって。いいよ友達になるう！」

次の日から、私達はどんどん距離を縮めていって、付き合ってるって噂も立てられたりした。でも友達以上には、なれなかった。

中2になって、クラスが離れたりしたけど、私達はいつも一緒にいた。た。

そして中3。

私と同じ委員会にしたり、私と同じ

高校を希望してきて（これって脈アリ？）と思ったりしたけど、勇気が出なくて・・・、告白出来ないまま卒業。

高校生になって新しい生活のスタート。

いくら大地と仲が良くても、もう告白する勇気もないし、あきらめよう。

と思い、好きでいるのをやめた。優しくてかつこいい先輩がいたから好きかも。思ったりしたけどすぐ冷めて長続きはしなかった。

もう1度、中学生の頃のような、あの頃のようなドキドキする恋がしたい。

なんで出来ないんだろう。。もうあきらめたんだから

次の恋に行ってもいいはずなのに。。。そんな事を悩んだときだった。

中1の春休み。もうキぐ高校2年生。後輩も入ってくる・・・。

早く学校始まらないかな」。

そんな事を考えてると、くく、携帯がなりだした。

誰だろう。と思いながら受信Boxを開くと

1つ年上の男の先輩からだった。

先「俺と付き合わない？」

私「冗談ですよ？私なんか・・・」

先「本気だったら？」

私「どっちですか？」

先「本気！！」

私（私1回も付き合ったことないしな。先輩かっこいいし・・・）

私「いいですよ。付き合いましょう」

先「マジ？やった」

私「よろしくお願いします」

くく以下略くく

最初から、その先輩の事は好きじゃなかったけど付き合いえば自然に好きになっていくと思ってたけどやっぱり駄目だった。

あきらめたはずの大地の事を考えてしまう。

付き合いえば忘れられる・・・。そう思ったのに。

（やつぱり・・・こんな気持ちのままじゃ付き合いえない。先輩にも失礼だよ）

次の日、勇気をだして先輩にメールをした。

私「先輩に話があるんですが・・・」

先「どうしたの？」

私「本当は忘れられない人がいるんです。」

先「そつか。」

私「すみません。軽い気持ちで返事してしまつて。」

先「気にすんな。頑張れよ」

私「え？」

先「間宮大地だろ。」

私「何で・・・」

先「最初から分かつてた。付き合えばすぐ忘れると思つてたけど」

私「ごめんなさい」

先「謝るなよ。頑張れ。じゃあな」

これで1ヶ月も経たないうちに人生最初の付き合いが終了。

自分から振つたのに涙が出てきた。どうしてだろう？

私は先輩に恋をしてた？先輩の事好きだった？

・・・。確かに好きだった。でも・・・心のどこかでいつもずっと好きだった人の事を考えていた。

毎日言葉を交わすたびに、一緒に騒ぐたびに好きだなつて思つてた。

でも、友達のままの方がいいと思つて、その思いを自分からも隠していた。今まで2人きりになったことはあつた。

一緒に出かけた日もあつた。チャンスはたくさんあつたのに・・・いつも、「勇気がないから」で片付けてしまつていた。

その「勇気がない」は、告白する勇気がないんじゃないかと告白してもし振られたら仲のいい友達に戻る自信がなかったからなんじゃないかって。今になつて思う。

実際今だつてそつだ。こうして告白できずにいる。

どうすればいいんだろう。告白した方がいい？  
仲間のまま楽しくやつてつた方がいい？

自分でも自分がどうしたいのか分からない。

今は高3の夏休み。卒業なんてもうすぐだ。

この気持ちは、しまっておこう。今は勉強だけに集中。

でも……。もし卒業の日までその人の事が好きだったら  
その時は打ち明けよう。

あなたのことが好きでした。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4590c/>

---

6年間変わらない恋

2010年12月30日03時41分発行